



新型コロナと未就学児の母親の重度のうつ・不安

子育て困難感増加で1.9倍、夫のDV的言動の増加で2.9倍

不公平感の増加で1.7倍、好ましくない変化3つで3.7倍

～パンデミック直前とその4ヶ月後の追跡調査から～

全国の未就学児の母親を対象に、2020年2月に第1回調査、6月に追跡調査を行い、コロナ下で生じた変化と重度のうつ・不安障害が疑われる精神状態との関連について検討しました。追跡調査では、新たに重度のうつ・不安障害が疑われた人が全対象者2,286名中151名(6.6%)みられました。2月に比べ3～5月に「ゆつくり過ごす時間が減少」した人は**1.6倍**、「子育て困難感が増加」した人は**1.9倍**、「夫のDV的言動が増加」した人は**2.9倍**、「不公平感が増加」した人は**1.7倍**、種類に関係なく好ましくない変化が3つ以上ある人は**3.7倍**、各質問で変化がないと答えた人に比べ、重度のうつ・不安障害が疑われる精神状態になりやすいことがわかりました。

お問合せ先： 聖マリアンナ医科大学 予防医学教室 講師 木村美也子 mkimura@marianna-u.ac.jp

*は統計学的に意味があることを示しています

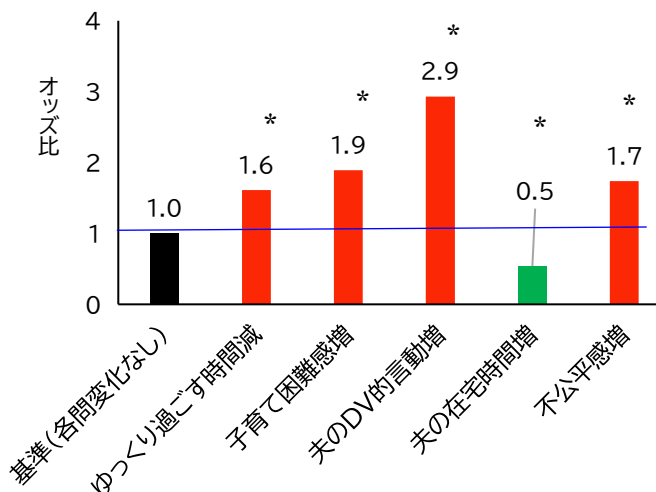


図 1. 変化の種類と重度うつ・不安障害(疑い)のオッズ比

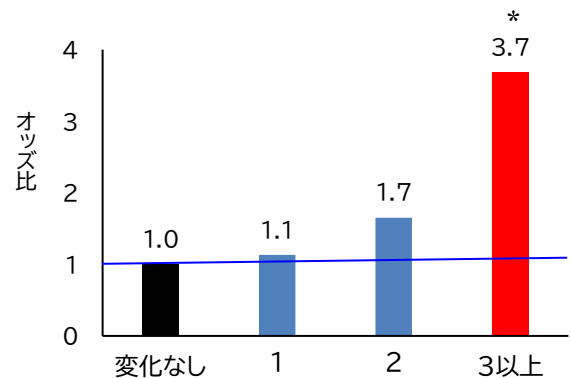


図 2. 変化数と重度うつ・不安障害(疑い)のオッズ比

◆上記は母親の年齢、学歴、婚姻・就業状況、世帯収入、子の年齢、子の数の影響を統計学的に取り除いています



■背景

わが国では妊産婦死亡の原因の第1位が自殺であり、その多くが出産後の死亡であることから、幼い子を養育する母親の精神健康を良好に保つ環境づくりが喫緊の課題となっています。特に新型コロナウイルス感染症流行時には子をもつ母親の負担が大きいことから、その精神健康への影響が懸念されますが、感染症流行前の状況と比較可能な調査研究は、極めて限定されています。そこで本研究では、未就学児の母親を対象としたパンデミック直前とその後の追跡調査により、新型コロナウイルス感染症流行時に生じた変化と重度のうつ・不安障害が疑われる精神状態との関連について検討したいと考えました。

■対象と方法

2020年2月中旬に、全国の未就学児の母親4,700名(47都道府県各100名)を対象とした第1回インターネット調査を実施しました。その4か月後の6月に同じ対象者に調査依頼をし、2,489名より回答を得ました(回収率53%)。このうち、第1回調査時に重度のうつ・不安障害の疑いのあった203名(K6、13点以上)を除外し、2,286名を分析対象としました。2020年2月以前と比較した3月～5月の状況として、下記8つの変化の有無(①居住地が特定警戒都道府県となる、②経済状況の悪化、③感染への不安の増加、④ゆっくり過ごす時間の減少、⑤子育て困難感の増加、⑥夫のDV的言動(怒鳴る・暴力をふるう)の増加、⑦夫の在宅時間の増加、⑧不公平感の増加)を尋ね、さらに変化①～⑧(予防効果のみられた⑦を除く)の合計数を0,1,2,3以上の4つの群に分けました。これら変化の種類、数と新たに重度うつ・不安障害が疑われる者の割合について、母親の年齢、学歴、婚姻・就業状況、世帯収入、子の年齢、子の数の影響を統計学的に取り除いた上で、その関連を解析しました。

■結果

4ヶ月間で、新たに重度のうつ・不安障害が疑われる精神状態になった人は151名(6.6%)でした。コロナ下における変化では、種類別では④ゆっくり過ごす時間の減少で1.6倍、⑤子育て困難感の増加で1.9倍、⑥夫のDV的言動の増加で2.9倍、⑧不公平感の増加で1.7倍、種類数では、3つ以上の変化があった人で3.7倍、それぞれ変化がなかった人に比べて重度のうつ・不安障害の疑われる状態になりやすくなりました。一方、⑦夫の在宅時間の増加では0.5倍と、同状態になりにくい(リスクが半減する)可能性も示唆されました。ただし、今回の参加者の約半数が0～1歳児の母親であったことから、夫の存在により子育ての不安や負担が軽減された可能性が考えられます。従って、こうした傾向が広く母親全般にもみられるのかどうかは、今回の結果だけで言及することはできません。母親の育児負担の軽減及び不公平感を減少する施策、DVへの社会的関心の向上が求められます。

■結論

未就学児の母親における重度のうつ・不安障害が疑われる精神状態には、コロナ下での好ましくない変化が関連している可能性が示されました。

■本研究の意義

感染症流行時の好ましくない変化を最小限に抑えることで、未就学児の母親の精神健康を改善できる可能性を示すことができました。

■発表論文

Kimura M, Kimura K, Ojima T. The relationships between changes due to the COVID-19 pandemic and the depressive and anxiety symptoms among mothers of infants and/or preschoolers: a prospective follow-up study from pre-COVID-19 Japan. *BMJ Open*, in press.

■謝辞

本研究は、JSPS 科研費科 JP17H02612 によって実施しました。記して深謝します。